
黒ネコ

藍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒ね口

【Zコード】

Z2547V

【作者名】

藍

【あらすじ】

僕、瀬下翼は望月莉緒に恋をした。

でも、君と僕の間にはどこまでもどこまでも続く長い試練が待っていた。

友達と争った。親の反感も買い続けた。それでも、君を愛し続けた。僕の純愛、聞いてください。

想ひの田舎ご（前書き）

初小説です。

まだ中1で小説は全く書き馴れていません。

みなさんの足元にも及びませんが、読んで貰いたいと思います。

君との出会い

あの日、僕は空を見上げた。快晴。360度どこを見渡しても、雲一つ無い。

そりやそうだろうな。天気予報で前々から今日この日の日をチェックし続けていたんだから。

今日は待ちに待った「デートの日」。

僕の彼女、「望月莉緒」との。

グニヤつと、突然視界が歪んだ。そして、僕は嘆いた。

「…なんでなんだ。どうして莉緒なんだ…」

目からは涙が零れ落ちた。

そう、彼女は……。

僕「瀬下翼」と望月は高校1年。僕も望月も受験し、華咲南高校に入学した。少しレベルの高い高校だ。僕の中学校からは、僕を含めて7人が合格。残念ながら、仲が良かつた友達は落ちてしまった。そいつは少し離れた燐前中央高校に通うことになった。そっちには、僕の中学の友達が数えきれないほどいる。

望月の中学からこっちに来たのは望月だけだった。1人で中学からこの高校に入学したのは、望月だけだったらしい。最初は1人だつ

たが、望月のやつぱりとした性格や面倒見の良さで、クラスに打ち解けるのは簡単なことだった。

4月も半ばになり、桜のピンクはもうほとんど見られなくなった。僕も徐々に知らない人と仲良くできるようになつてきた。僕に人見知りとかいう感情がなくて良かったなと思つた。

? 「おい、翼ッ！ メシの時間だぜ。」

翼 「はいはい。あ、俺今日弁当だから。」

? 「えー、マジかよ…。しゃあねーな。購買行つてパン買つてくるから、食べないで待つてろみー。」

翼 「了解。待つてるよ。」

こいつは、「平原達也」。ここにきて、仲良くなつた友達。元気いつぱいの明るい性格。意外にも頭がいい。

? 「つたぐ、達也のヤツ…。早くしろよ。」

こちらで愚痴つてるのは「白川涼汰」。髪の毛を濃いめの茶で染めている。タバコも吸つていると聞くから驚きだ。でも、根はけつこういいヤツで優しい。

達 「たつだいまー。パン買つてきた。」

涼 「よし、じゃあ食おうぜ。いたたきまーすつと…。」

翼 「… いただきます。」

なんだかんだで忙しくも充実した毎日を送つていた。

7月中旬。夏休みを目前にした僕たちは浮かれていた。

涼 「なあ、今日カラオケ行かねえ？」

翼 「… んーと、今日は予定空いてるな。いいよ、行こひ。」

涼 「よしッ。じゃあ、達也は？」

達 「全然行けるー。」

翼 「うん、〇〇店の前で6時半集合な。」

高校生になり、かなり自由になれた僕は今をとても楽しんでいた。

? 「ちよっと、待ちなさいよ。たつ！」

キンキンに響く声。そこに立っていたのは「小坂いちろう」。

ショートの髪が似合う、僕のクラスの級長。少し細めの目で、小柄な体。活発でみんなのリーダー的存在。達也から幼なじみだと聞いていた。

達也「なんだよ、いちろう。」

い「アンタ、まだ数学のプリント出してないでしょ？ 出すまでカラオケ禁止！！」

そんなあー、許していちじょう、などと叫ぶ達也を置いて僕らは歩き出した。

涼太「じゃあな、達也ッ！！」

い「…ねえ、私たちも行つてもいい？ カラオケ。」

帰り際に小坂がいきなりこんなことを言い出した。

翼「いいけど…たちつてことは他にも？」

い「うん。莉緒と紗菜なんだけどいいかな？」

紗菜というのは「藤岡紗菜」

藤岡は僕の知り合い。…でいうか、小中共に同じ。でも、それほど親しくない。

涼太「よつしゃあ――――OKOK。行こうぜっ。」

涼太は藤岡をよく気にかけていた。僕が望月を気にしていたようにこの一言でいちじょうはすべて悟つたらしい。

い「はあーん。なるほどね。ってことは、瀬下さんは莉緒でしょう。人差し指をたてて、僕の口の前にもつてくれる。…図星。顔が赤く染まつていくのが分かった。

涼「そーなんだよ。俺は藤岡さん狙いで翼は望月さん狙い。
ピストルを持つ動作。そして、バキューと撃つた。

カラオケ前には、僕、涼汰、小坂、望月、藤岡が集まっていた。
最初に私服についての話になつたのを覚えている。僕の私服はなか
なかの好評で、3人に褒められた。

望月は髪にワックスをかけてほしい、と言つた。明日からそうする
よ、僕は優しく笑いかけた。

やつぱり可愛いなあ、望月は。サラサラの長い黒髪が僕を魅了した。
部屋に入つてからも、かなり盛り上がつた。元気な性格なのが集ま
ればこうなるのであらう。

…ここまでは本当に楽しかつたなあ。望月ともたくさん話せたし。
でも、この先に起つる悲劇なんて知らなかつた。

知りたくなかつたんだ…。

翻訳の出稿（後書き）

どうだったでしょうか？

まだまだ続きます。

誤字、脱字等があれば是非教えてください。
感想などもお待ちしています。

読んでいただきありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2547v/>

黒ネコ

2011年10月9日13時04分発行